

地元で愛されたシンボルの再生

安長寺を創建した甘木安長は、十二ヶ寺の末寺の建立を計画していました。第一の霊場の条件は、湧き水のある清浄無垢な場所が良いと考えていました。

しかし、候補地を探したのですが見つからず、占いによって示された地に行くとムクノキの根元からこんこんと冷泉が湧き出していました。そこに独鈷(※)を打ち込むとさらに水が湧き出して、龍の形の池になりました。(甘木風土記による) ※両端がとがっている短い棒状の仙具

ムクノキと龍泉池の昔ばなし



倒れる前のムクノキと龍泉池の跡

令和元年8月29日未明、大雨のために甘木地域本町にある龍泉寺のムクノキが倒れました。地域のシンボルだったムクノキは、地元の要望もあり、一部保存することになりました。枝葉が広がった大きなムクノキは、小さな姿になってしまいましたが、大地に根付き、今年の夏は、また元気に芽吹くでしょう。

龍泉寺のムクノキ

朝倉青年会議所 まちづくり事業 古処山登山(フォトコンテスト)



最優秀賞 うたさんの作品

朝倉青年会議所は、自然を感じ、環境について学ぶ事業として「フォトコンテスト」を67名の参加者と共に実施しました。

担当している四ヶ所委員長は、「この山は国の特別天然記念物であるつげを有するにも関わらず、ごみの不法投棄で汚されています。朝倉地域の周知されていない資源に目を向けることで、環境に対する取り組みにも繋がればと考えます。」と語られていました。

また、参加者の中尾さんは「災害の爪痕が残っていて驚きました。天然記念物がこんな場所にあるとは」と話されていました。

中村哲医師のご逝去を悼んで

昨年12月、アフガニスタンで中村哲医師がご逝去されました。

中村哲医師は、朝倉市に何度も足を運ばれ、山田堰を参考にアフガニスタンで自然の石を使い灌漑施設を造られました。第1次計画により、現在、緑を取り戻した16,500ヘクタールの土地には65万人の人々が暮らしています。

生前、親交の深かった山田堰土地改良区の徳永哲也さんは、中村哲医師について「常に、人々のことを考え、地球環境・温暖化に心を砕かれていました。第2次計画により、取り組みが拡大し、さらに多くの緑と人々の暮らしが整っていくと期待されていました。」とお話し下さいました。

中村哲医師のご功績を偲びつつ、故人のご冥福をお祈りいたします。



被災直後のムクノキ

現在



山田堰に立つ中村哲医師

写真: 環境かべ新聞朝倉 第7号掲載

毎月第2週は
きらきら美花美化
週間
きららちゃん

掲示期間 令和2年3月1日～令和2年6月30日まで

シリーズ山城 第10回 福嶽城



朝倉市秋月にある丘城

宮地嶽神社

戦国時代、秋月氏家臣・福武美濃守の居城と伝えられ、観音岳城とも言われています。江戸時代、一国一城令により、取り壊されました。その後、城下に時を告げる鐘があったことから、時鐘、鐘山とも呼ばれました。現在、鐘はなく、宮地嶽神社が奉られています。ここからは、古処山と鐘が響いた秋月の町並みを眺めることができます。